第11号

奈良国立博物館だより

平成６年　10・11・12月

平常展「仏教美術の名品」

～10月16日(日)　本　館
11月15日(火)～11月20日(日)　本　館
11月22日(火)～12月25日(日)　本館・新館
月曜日休館
午前9時～午後4時30分
（入館は4時まで）

特別展「第46回　正倉院展」

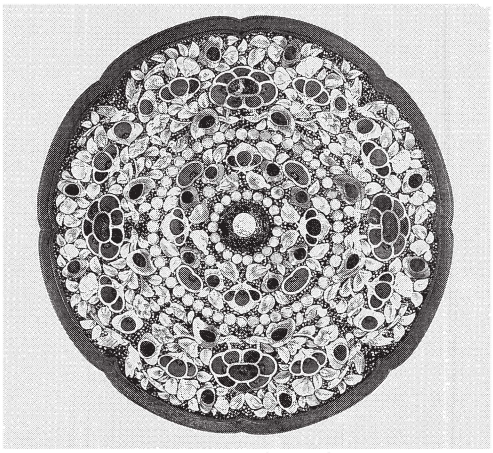
10月22日(土)～11月7日(月)　新　館
会期中無休
午前9時～午後5時
（入館は4時30分まで）

〔写真解説〕
紺瑠璃坏（正倉院宝物 南倉） 高さ11.2cm 口径9.3～9.5cm
紺色のアルカリ石灰ガラス製の坏で、側面に同質のガラスで環形文の装飾を施している。台脚は銀製鍍金で双龍の文様を線刻している。西方的な形姿とコバルトブルーの色が人々を魅了する。なお、同様の環形文を付けたガラス器は、中国・西安の何家村穴蔵遺跡や、韓国・慶尚北道の松林塼塔からも出土している。

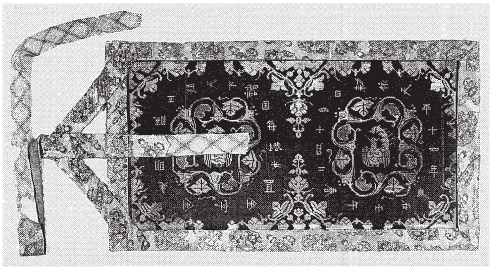
特別展「第46回 正倉院展」　　10月22日(土)～11月7日(月)　新　館

74件の宝物（うち22件が初公開）が出陳されます。その内容は、年中行事品、刀剣、歴史資料、仏教関係品（仏具）、古文書、楽具・楽衣裳、書跡、調度、楽器、飲食器、経典など広い分野にわたっています。

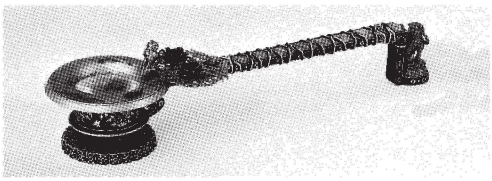
年中行事品では、「百索纓軸」があります。厄除けの行事を行う際に用いる五色の糸を巻いた糸巻です。刀剣類では、「御杖刀」と呼ばれる仕込み杖と、水牛の角や象牙を把や鞘に用いた三種類の刀子(小刀)があります。今回特に注目されるのは、奈良時代の東大寺を知る歴史資料で、東大寺の境内やその周辺を大きな麻布に描いた絵地図「東大寺堺界四至図」は、とりわけ興味深い遺品です。また東大寺にかかわる仏教関係遺品では、金光明最勝王経十巻を包んだ「最勝王経帙」、ビャクダン材を精緻に彫刻した「刻彫蓮華仏座」、仏前で散花をする際に花を盛る「花籠」、シタン材を主体に金銀珠玉で豪華に装飾した「紫檀金鈿柄香炉」をはじめ、「黄楊木金銀絵箱」、「梗楠箱」、といった諸堂の仏前に献物をする際に用いる箱や「黒柿蘇芳染金絵長花形几」、「碧地彩絵几」「蘇芳地六角几」といった献物机があり、いずれも工芸技法が駆使されています。古文書では、戸籍や正税帳、計帳などが展示されます。楽具・楽衣裳では、法会の際に催される楽舞に用いた「布作面」や「金薄絵馬頭」、「布虎兜」、「緋絁鳥兜」があり、「布袍」、「布衫」、「紫綾勒肚巾」は、演じる際に着ける衣服や帯です。書跡では、唐の王勃の選した「詩序」があり、諸色の色麻紙に書写されています。調度では、「平螺鈿背八花鏡」、「山水人物鳥獣背円鏡」といった鏡とその鏡箱があり、キャビネット形の収納具「黒柿両面厨子」にも当時の洒落た感覚がうかがえます。楽器では、竹管の表面を削って文様を表した「刻彫尺八」、竪形のハープ「箜篌」、三彩の遺品としても貴重な「磁鼓」があります。飲食器では、西域風を伝えるガラス器「紺瑠璃坏」や花形の杯「金銅八曲長坏」が人目を引くことでしょう。経典は、「仏説称揚諸仏功徳経」など三巻で、いずれも奈良時代の書風を伝えています。



平螺鈿背八花鏡（北倉）



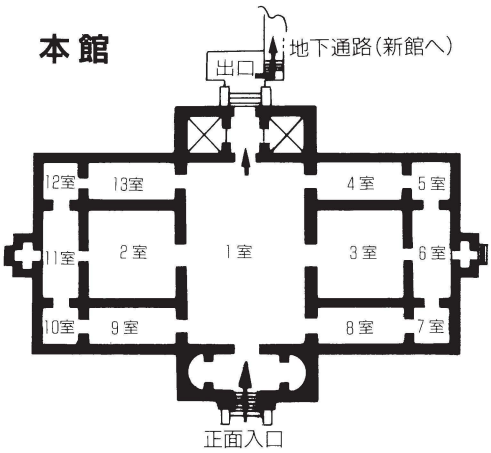
最勝王経帙（中倉）

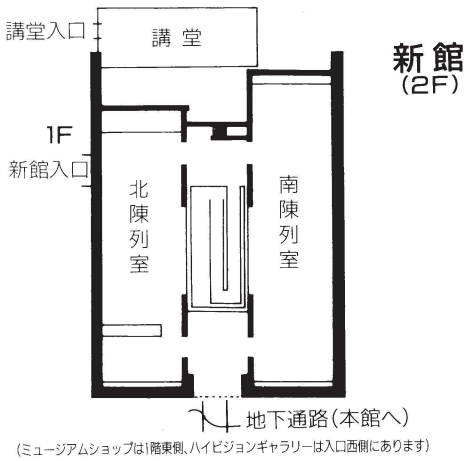


紫檀金鈿柄香炉（南倉）

平常展「仏教美術の名品」　　～10月16日(日)　本　　館
11月15日(火)～11月20日(日)　本　　館
11月22日(火)～12月25日(日)　本館・新館

当館で収蔵・保管する館蔵品・寄託品の中から国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示し、仏教が伝来した飛鳥時代から連綿と続く多彩な美術を紹介する。本館は、各種の仏像の時代別展示と、寺院出土の遺物や瓦などを展示。新館は、仏像・仏画を大乗仏教、密教をはじめ垂迹美術も含め種類主題別に展示するほか、経典や仏教関係の文書・書跡、仏堂の装飾や、仏の供養に用いるための様々な仏具を展示する。





(ミュージアムショップは1階東側、ハイビジョンギャラリーは入口西側にあります)

主な展示品

本館

十月

彫刻

10月1日(土)～12月25日(日)
1、2、9～13室

【飛鳥時代】◎銅造誕生釈迦仏像(正眼寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造観音菩薩立像(法起寺)
【白鳳時代】◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦仏像(悟真寺)、◉銅板法華説相図(長谷寺) **【奈良時代】**◉乾漆十大弟子立像のうち舎利弗・目犍連像(興福寺)、◉乾漆八部衆立像のうち緊那羅像(興福寺)、◉木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木造十一面観音立像(薬師寺) **【平安時代】**◎木心乾漆阿閦如来坐像(西大寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◉木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造日羅立像(橘寺)、◉木造薬師如来坐像(当館)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)**〔写真〕**、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(当麻寺)、◎木造金剛力士立像(財賀寺)、◎木造十二神将立像(東大寺)、◉木造板彫十二神将像のうち2面(興福寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(東大寺)、木造地蔵・竜樹菩薩坐像(当館)、◎舞楽面(手向山神社) **【鎌倉時代】**◉木造法相六祖像のうち伝行賀像(興福寺)、◎木造多聞天立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造地蔵菩薩立像(長命寺)、◎木造地蔵菩薩立像(春覚寺)、◎木造千手観音立像(妙法院)、◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造閻魔王倚像(金剛山寺)、◎木造聖徳太子立像(成福寺)、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)、◎行道面(浄土寺)ほか

考古

～10月16日(日)

〔4室〕◎田原本町出土埴輪(田原本町)、桜井市珠城山1号墳出土品(当館) 〔5室〕星塚古墳出土品(当館)
〔6室〕百済出土古瓦、高句麗出土古瓦(当館)、飛鳥時代の古瓦、白鳳時代の古瓦、奈良時代の古瓦 〔3室〕橘寺出土火頭形三尊塼仏(当館)、南法華寺出土方形三尊塼仏(南法華寺)、石光寺出土塼仏(石光寺)、多宝塔塼仏、川原寺裏山出土緑釉塼(明日香村)、斎尾廃寺出土塑像断片(当館)、本薬師寺出土塑像頭部(薬師寺)、◎石製九輪及び金銅風鐸(当館)、◉粟原寺伏鉢(談山神社) 〔6室〕奥山久米寺出土蓮華文鬼瓦(京都国立博物館)、山村廃寺出土蓮華文鬼瓦、◎大安寺出土鬼神文鬼瓦 〔7室〕◎元興寺五重塔鎮壇具(元興寺) 〔8室〕◉東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎佐井寺僧道薬墓誌及び骨壺(当館)、◎山代忌寸真作及び妻墓誌(当館)、行基舎利瓶断片(当館)、◎出雲萩杼古墓出土品(当館)、◎青磁鉢及び瓦製鉢(正暦寺)ほか

10月17日(月)～11月14日(月) 展示替のため休館

十一月

11月15日(火)～12月18日(日)

〔4室〕◎桜井市珠城山1号墳出土品(当館)、百済出土古瓦、高句麗出土古瓦、飛鳥時代の古瓦、白鳳時代の古瓦 〔5室〕薬師寺出土鬼神文鬼瓦(京都国立博物館)、◎大安寺出土鬼神文鬼瓦、山田寺出土埴先瓦(当館)、薬師寺出土花雲文隅木蓋瓦(当館) 〔6室東〕塼製如来坐像仏龕(当館)、方形阿弥陀三尊塼仏(当館)、三重・天花寺出土方形三尊塼仏(当館) 〔3室〕◎鳳凰塼(南法華寺)、◉東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎元興寺五重塔鎮壇具(元興寺)、◎石製九輪及び金銅風鐸(当館)、◉粟原寺伏鉢(談山神社) 〔6室西〕◎佐井寺僧道薬墓誌及び骨壺(当館)、◎山代忌寸真作及び妻墓誌(当館)、行基舎利瓶断片(当館)、◎出雲萩杼古墓出土品(当館)、◎青磁鉢(正暦寺) 〔7室〕◎金峯山経塚出土鍍銀経箱(金峯神社)、◉三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土銅経箱(金剛証寺)、東京・証蓮寺経塚出土銅経箱(当館) 〔8室〕◎藤原道長願経(金峯神社)、◎和歌山・王子神社経塚出土紙本墨書法華経(当館)、◎銅板法華経(長安寺)、◎伝福岡県出土銅経筒・滑石外筒(当館)ほか

十二月

12月19日(月)～
陳列替のため休館

新館

十月

彫刻

絵画

書跡

工芸

～10月21日(金) 改修工事及び陳列替のため休館

第46回 正倉院展 10月22日(土)～11月7日(月)

百索縷軸、二十八足几、御杖刀、白犀把鞘金銀荘刀子、斑犀把紅牙撥鏤鞘刀子、烏犀把白牙鞘金銀荘刀子、東大寺山堺四至図、東大寺山堺勅定、勅書銅板、最勝王経帙、仏像型、漆仏龕扉、刻彫蓮華仏座、花籠、緑金箋、雑玉幡、紫檀金鈿柄香炉、金銅大合子、朴木粉絵高杯、黄楊木金銀絵箱、梗楠箱、紫檀木画箱、黒柿蘇芳染小櫃、檜花鳥墨絵櫃、黒柿蘇芳染金絵長花形几、碧地彩絵几、蘇芳地六角几、榻足几、黒柿両面厨子、灌頂幡垂脚、紫地綿几褥、組帯、東南院古文書第三櫃第二巻、正倉院古文書正集第六巻、正倉院古文書正集第四十三巻、続修正倉院古文書第十三巻、続修正倉院古文書後集第一巻、正倉院塵芥文書第三十二巻、続々修正倉院古文書第一櫃第三巻、布作面、金薄絵馬頭、布虎兜、緋絁鳥兜、絞纈布袍、布袍、布衫、紫綾勒肚巾、綿履、履、白布、詩序、平螺鈿背八花鏡、漆皮箱、山水人物鳥獣背円鏡、金銀絵漆箱、花背六花鏡、漆皮八角箱、尺八、刻彫尺八、磁鼓、箜篌、金銅水瓶、金銅八曲長坏、銀提子、紺瑠璃坏、紺瑠璃壺、仏説称揚諸仏功徳経巻中、五分律巻第四、一切経音義巻第六断簡

十一月

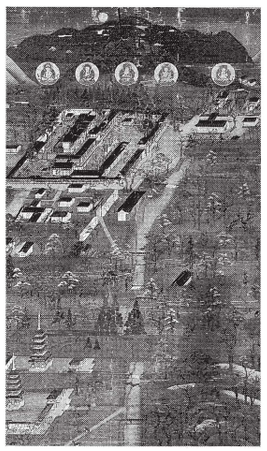
11月8日(火)～21日(月) 陳列替のため休館

11月22日(火)～12月25日(日)
南陳列室(〔北〕とあるもののみ北陳列室)

【如来】◉銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤(東大寺)、銅造釈迦如来立像(光明寺)、◎銅造薬師如来立像(般若寺)、木造大日如来坐像(元興寺町)、◎木造阿弥陀如来坐像(念仏寺)〔北〕◎木造阿弥陀如来坐像(安楽寿院)、◎木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎銅造阿弥陀三尊像(東京国立博物館)、◎木造阿弥陀如来坐像 **【菩薩】**◎木造弥勒菩薩坐像(薬師寺)、◎木造薬師如来立像(称名寺)〔北〕、◎木造准胝観音立像(常盤山文庫)、◎木造聖観音立像(本山寺)、◎木造聖観音立像、◎木造竜猛菩薩立像(金剛峯寺)、◎木造明星菩薩立像(弘仁寺) **【明王】**銅造不動明王立像(当館)、◎木造愛染明王坐像(当館)**〔写真〕**、銅造軍荼利明王立像(園城寺) **【天】**木造十二神将立像(当館)、木造毘沙門天立像(当館)、◎木造増長天立像(法明寺)、◎木造持国天立像(東大寺)〔北〕、◎木造多聞天立像(東大寺)〔北〕、◎木造大黒天立像(興福寺)、木造大黒天立像(西大寺)ほか

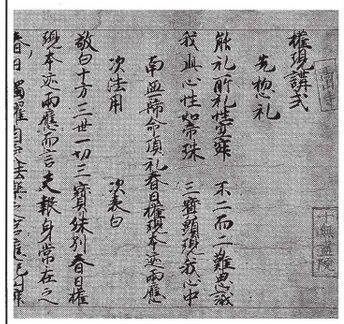
11月22日(火)～12月25日(日)

〔南陳列室〕 ◎仏涅槃図(達磨寺)、◎観経十六観相図(阿弥陀寺)、阿弥陀浄土曼荼羅(当館)、◎普賢菩薩像(当館)、不空羂索観音像(一乗寺)、◎白衣観音像(当館)、◎千手観音像(金峰山寺)、千手観音像(当館)、◎十一面観音像(金心寺)、両界曼荼羅(当館)、◎一字金輪曼荼羅(南法華寺)、◎尊勝曼荼羅(園城寺)、◎不動明王二童子像(瑠璃寺)、◉十二天像のうち地天・梵天(西大寺)、善恵上人伝絵(浄橋寺)
〔北陳列室〕 ◎春日本迹曼荼羅(宝山寺)、◎春日浄土曼荼羅(能満院)、春日宮曼荼羅(南市町)**〔写真〕**、春日宮曼荼羅(当館)、春日社寺曼荼羅(当館)、春日興福寺曼荼羅、春日赤童子像(植槻八幡社)



11月22日(火)～12月25日(日)

〔北陳列室〕 ◎僧綱補任(興福寺)、神護寺交衆任日次第(当館)、◎西大寺三宝料田畠目録(西大寺)、西大寺別当乗範書状(西大寺)、西大寺別当乗範置文案(西大寺)、◎春日権現講式(高山寺)**〔写真〕**、◎弥勒講式(笠置寺)、◎地蔵講式(笠置寺)



11月22日(火)～12月25日(日)

〔北陳列室〕 ◉鉄宝塔(西大寺)、木製宝塔(当館)、金銅宝塔(当館)、金銅火焔宝珠形舎利容器、◎黒漆舎利厨子(般若寺)、銅宝篋印塔(当館)、銅銭弘俶八万四千塔(当館)、◎銅三具足(聖衆来迎寺)、銅王子形水瓶(当館)、◎金銅錫杖頭、◎金銅草花文磬(峰定寺)、◎金銅蓮華形磬(赤松院)、金銅錫杖頭(施無畏寺)、◎銅梵鐘(当館)、銅梵鐘(宝泉寺)、◎銅鉦鼓(手向山神社)、刺繡釈迦阿弥陀二尊像、◎黒漆螺鈿卓(東大寺)、◎金銅透彫蓮華文華鬘(神照寺)、◉金銅透彫迦陵頻伽文華鬘(中尊寺)、◎木製彩色華鬘(霊山寺)、◉金銀鍍宝相華文透彫花籠(神照寺)、◎紙胎彩色花籠(万徳寺)、◎金銅種子華鬘(兵主大社)、◎鳳凰戟金経櫃(浄土寺)、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、金銅独鈷鈴(当館)、◎金銅三鈷鈴、◎金銅宝珠鈴、◉金銅密教法具(厳島神社)、◎黒漆金銅装戒体箱(金剛寺)、◎金銅四大明王五鈷鈴(当館)、◎金銅四天王五鈷鈴(弥谷寺)、線刻男神鏡像(当館)、十一面観音懸仏(当館)、◎線刻阿弥陀如来鏡像(当館)、◎金銅春日神鹿御正体ほか

十二月

◉国宝、◎重要文化財。 展示品は都合により一部変更する場合があります。

正倉院展 Q&A

Q：正倉院展は、いつから始まったのですか？

A：戦後まもない昭和21年(1946)に、当館において第１回正倉院展が開催されました。当時はまだ「奈良帝室博物館」の時代で、翌年に国立博物館となり、現在の「奈良国立博物館」となったのは、昭和27年(1952)で、第７回の開催からです。なお、今年は第46回となりますが、これは当館で開催された場合に限ってのことで、昭和24年(1949)、34年(1959)、56年(1981)の３回、東京国立博物館で開催された「正倉院展」をいれると49回になります。

昭和27年　第7回ポスター

昭和21年　第1回入場券

Q：正倉院展はいつも混雑していますが、入館者数はどのくらいですか？　また、いつごろが比較的すいているのか教えてください。

A：過去46回の中で、最も入館者が多かったのは、平成２年の211,222人です。最近の傾向では、午後０時から２時ころがピークで、３時半を過ぎると次第にすいてきます。展覧会鑑賞の平均的な所要時間は約１時間ですから、このころ入館されれば５時の閉館まで比較的ゆっくりご覧になれると思います。なお、平成10年には第２新館(仮称)が現在の新館の東側に完成し、正倉院展の混雑も緩和されることと思います。

Q：宝物の名称に難しいものがありますが、何か理由があるのですか？

A：天平勝宝８年(756)５月２日に聖武天皇が崩御されたのち、光明皇后は天皇遺愛の宮廷用品の数々を、その品名を列挙した『国家珍宝帳』と呼ぶ目録とともに東大寺の盧舎那仏(大仏)に献納されました。展示の正倉院宝物の名称は、この目録と、明治時代に編集された『正倉院御物目録』の記述の仕方を基準にしたものです。名称は短いものもありますが、長いものは、おおよそ材質や技法・形状が先に、用途名があとに記されています。たとえば「黒柿蘇芳染小櫃」の場合は、黒柿材を蘇芳で染めた小さい櫃ということになります。なお、難解と思われる名称には、名称とともに括弧内に平易な表現の略名を記述していますし、短文で付した解説を読むと、大体のことはおわかり頂けるものと思います。

Q：宝物の展示をもう少し高くすれば、人の頭越しでも見易くなると思いますが？

A：宝物を置く展示台は、110cmの高さを基準にして作ってあります。工芸品は、やや上方から眺める時、最も形が美しく目に映ります。最近は、日本人の平均身長も伸びたようですが、これより高くすると、やはり形の鑑賞という点から支障がでてくると思われます。なお、ほぼ同じ割合で、展示が低すぎるとの御意見もありますが、低すぎると逆に人の流れが滞って混雑に拍車をかける恐れが生じます。

Q：染織品の展示ケースが暗いのはなぜですか。

A：染織品や彩色が鮮やかに残っているものは、褪色の危険性があります。その第一の原因は紫外線です。博物館では、蛍光灯等の照明器具にはいずれも紫外線量の少ない特別なランプを使用し、褪色の危険のあるものについては照度をさらに押えて展示しています。なお、ケース内は、温度20～23℃、湿度60～65％に設定されており、銀製品などは二重の密閉ケースに展示して、亜硫酸ガスなどによる影響をも考慮しながら万全を期しています。

Q：宝物はどうやって正倉院から運ばれてくるのですか？

A：宝物は、展覧会がはじまる２週間ほど前に、正倉院事務所と当館の担当者の間で、約４日間を要して一点づつ綿密に調書が作成され、引き渡しのための点検作業が行われます。その後、館員の手によって梱包され、一点一点木箱に納められてパトロールカーの警護のもと、輸送が行われています。

正倉院展講座

10月22日(土)	東大寺山堺四至図と正倉院の絵図	中央大学教授　皆川　完一
10月26日(水)	詩序について	館　長　山本　信吉
10月29日(土)	正倉院の鏡	東京芸術大学教授　中野　政樹
11月２日(水)	紫檀金鈿柄香炉について	普及室長　関根　俊一
11月５日(土)	鑑真和上と正倉院宝物	宮内庁正倉院事務所保存課調査室長　三宅　久雄

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名。聴講無料。

ギャラリートーク

10月12日(水)	天平の彫刻（本館陳列室）	主任研究官　井上　一稔
12月14日(水)	春日神鹿御正体（新館南陳列室）	工芸室長　阪田　宗彦

午後2時より、陳列室で開催。入館者は自由に聴講できます。原則的に毎月第2水曜日に開催。

親と子の文化財教室

平成6年度〈奈良時代の歴史と美術―大仏造立のころ―〉主催・当館 後援・奈良県教育委員会

〈年間予定〉10月８日「正倉院の宝物」、11月12日「正倉院の校倉―宝物はどうして伝わったか―」、12月10日「発掘された寺院の宝物―東大寺と国分寺―」、１月14日「お経を写す」
〈対象〉小学５・６年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加及び定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。
〈定員〉50名（先着順）。
〈時間〉午前10時から12時。
〈場所〉当館講堂・展示室ほか（現地見学もあります）。
〈参加料〉無料（ただし見学料金等が必要な場合があります）。
〈申込方法〉往復はがき（または電話）で、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者等の氏名・実施日とを記入のうえ、〒630 奈良市登大路町50　奈良国立博物館　親と子の文化財教室係 ☎0742-22-7771　までお申し込み下さい。

ハイビジョンギャラリー（新館１階ロビー）

ハイビジョンによる臨場感あふれるクリアーな映像と、わかりやすい解説で文化財の紹介をしています。現在、「奈良国立博物館の名品」を、彫刻・絵画・工芸・考古・書跡の各分野で製作を進めており、順次放映してゆく予定です。

八窓庵茶室の公開

〈公開日〉　新館開館中の毎週木曜日（ただし雨天の場合は公開しません。）
〈公開時間〉午前10時より午後３時まで（入館者は自由に見学して頂けます。新館南側の扉よりお進み下さい。）　なお、茶室の使用については、当館管理課までお問い合わせ下さい。

開館時間　午前９時より午後４時30分まで（入館は午後４時まで）
休 館 日　月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

観覧料金　毎月第２土曜日は、小・中学生無料（正倉院展・共催展等を除く）。

正倉院展		大　人	高・大生	小・中生
	一　般	790	450	250
	団　体	530	250	130

平常展		大　人	高・大生	小・中生
	一　般	400	130	70
	団　体	200	70	40

（団体は責任者が引率する20名以上。ただし正倉院展は、土・日・祝日は団体の取扱いを致しません）。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各１日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50　電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレフォンサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**